

ある。

クルミチヨウ 胡桃町 金澤の町名。昔は味喰蔵町に屬し、元祿六年の土帳に『御普請會所向みそくら町』などと見える。明治四年四月上旬胡桃町・下胡桃町と稱することにしたが、この町名は附近の黒梅橋を俗にクルミ橋と誤つてゐたから採つたものである。

クルミバシ くるみ橋 ↓クロウメヤバシ 黒梅屋橋。

クレサカ 暮坂 鳳至郡七浦庄に屬する部落。

クロイシ 黒石 羽咋郡大福寺から産する石材。輝石安山岩の分解したもので、黝黒色を呈し、質緻密である。

クロイハ 黒岩 イハ 鳳至郡仁岸郷に屬する部落。能登名跡志に、『黒岩村に大なる堤あり。』とあつて、この堤は貯水池の意である。

クロイハジマ 黒岩島 鹿島郡白濱の海上にあつて、大島・小島にわかれる。能登誌に、白比古神社は岩を以て神體とするが、その像石は往昔岩舟に乗つて黒岩島に上り給うたものであり、幅八尺長五間の船形の岩が今も存するとある。この岩舟のある所を岩舟崎といふ。

クロイハジヨウ 黒岩城 鳳至郡黒岩にあつた。越登賀三州志故墟考に、『馬場村の近村黒岩にも、仁岸石見守城跡といふ所あり。馬場城の支條なるか。』とある。

クROIハボウケ 黒岩崩 白山市、瀬砂防登路の上飯場から上にあつて、角閃安山岩塊の堆積する地である。舊市瀬温泉から登る道路と柳谷川に沿ふ所謂白山砂防道路とは、この

附近で相合する。白山遊記に久路波波岐としてゐるのは是であらう。黒岩崩には、黒ぼこ岩と稱する大きな火山礫が存する。

クロウチ 黒氏 シロ 鹿島郡一青庄に屬する部落。天正八年十一月廿七日附長連龍が關吉右衛門に宛て、黒地村の代官職を申付けるとある黒地も是である。

クロウチフカサハ 黒氏深澤 フカジ 鹿島郡黒氏の内の小字。

クロウメゾメ 黒梅染 ↓ウメゾメ 梅染。昔は名高い染工であつた。黒梅屋は初め金澤黒梅屋橋附近に住し、藩の用向をも勤めて居たが、中頃鍍治片原町に移轉し、後十三間町に居住した。金澤町會所舊記に、元祿五年十一月町奉行和出小右衛門の詮議書に、頭取紺屋共之内黒梅屋治左衛門の名が見える。屋號は黒梅染を染めたから起つたのであるが、この頃はもはやその法が断絶してゐた。

クロウメヤバシ 黒梅屋橋 金澤橋舊記に、『くるみや橋、味喰蔵町』とあつて、後にくるみや橋或はくるみ橋と呼ぶのは、黒梅屋橋を誤つたもので、それは大手町の端なる惣構堀に架した橋であつた。昔此の橋爪に黒梅屋なる染工がゐたから起つた名であるといふ。明治廢藩の後板橋を改めて土橋としたが、それも今は存せぬ。

クロカサシヨウ 黒笠庄 麦穂紀間に、江沼郡庄村の邊を昔は黒笠の庄といふたと傳へるとあり、江沼志稿にはそれを黒笠庄に作る。しかし黒笠にしても黒笠にしても、この庄號は文献に見當らぬ。

クロカハ 黒川 羽咋郡押水大海庄に屬す

る部落。

クロカハ 黒川 鳳至郡中野郷に屬する部落。能登名跡志に、『黒川村近し。新助とて公領の庄屋あり。よき百姓也。』とある。

クロカハイシ 黒川石 鳳至郡下黒川に産する石材。スエマタ石とも稱する。安山岩質凝灰岩で、帯鼠草色の石基中に、濃草黒色角閃石様の礫を混じ、質は稍脆い。

クロカハゲンリヨウ 黒川元良 初め町醫として外科の治療に従ひ、公事場御用を勤めたが、天明五年御醫となつて十人扶持を受け、寛政十年更に十人扶持を加へられた。子孫元恒・覺計・元良等相繼いだ。

クロカハリユウセン 黒川流泉 元祿十一年初めて御坊主となり、享保十九年御坊主頭に進み、新知七十石外に料三十石を受け、延享四年三月歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

クロカハリヨウアン 黒川良安 諱は苑。號は靜淵、後藩侯から自然の號を賜はつて、専らそれを用ひた。父玄龍は越中新川郡大板木村に醫を營んだが、文化十四年二月四十一歳で長崎に赴き、良安も之に従うて蘭語を通詞吉崎權之助に受けた。天保五年玄龍は業を了へて郷に歸つたが、良安は尙止つて醫をジポルトに學び、曾て燐の製法を發明したことがある。十一年八月良安將に國に就かんとして金澤を過ぎ、長谷川猷の周旋によつて青山知次の家に仕へ、祿五十石を受けた。翌年良安大坂の緒方洪庵の勸誘により、江戸に出て坪井信道の門に入り、頭腦の解剖を行つて世人を驚かせた。この間に松代の佐久間象山と相識り、遂にその江戸の家に寓して彼に蘭語を教へた。象山推稱措かず、即ち松代藩に

縁仕せしめんと謀つたが、加賀藩に於いてもかくの如き人材を他に出すことを欲せず、知次は藩侯前田齊泰に請うてその侍醫とし、祿八十石を受けしめた。次いで安政元年壯翁館の開けた時、良安は教授兼翻譯方となり、四年齊泰に隨伴して江戸に赴き、幕府の審書調所教授手傳となり、藩から五十石を加増せられ、文久三年軍艦御用を兼ね、慶應元年種痘所棟取に任じ、三年卯辰山養生所主附となつて又五十石を加増せられた。明治元年良安はその子誠一郎を佛國に留學せしめんが爲再び長崎に至り、三年金澤藩醫學館の教師に任じ、四年廢藩の事あるや八月之を辭し、爾後風月を伴として世外に逍遙し、二十三年九月廿八日七十四歳を以て歿、四十二年九月十一日正五位を追贈せられた。良安天資福澤にして能く業を容れ、寡黙決して他の愚を言ふことなく、自ら率ずること頗る簡素であつた。

クロカベヤマ 黒壁山 石川郡三小牛の領山である。古木繁茂して贖所と稱せられ、小祠を立て、あつた。或はいふ。前田利家金澤入城の際、本丸が贖所であつたのを、この山に移らしめたのであると。明治以後山脚に洞窟を作り、祠殿を建て、九萬坊權現と稱して祈禱を行ふ所としたが、同六年淫祠として破却を命ぜられ、今は三十五年金澤の天台宗藥王寺がその傍に移つた。

クロカミジンジャ 黒巖神社 鳳至郡上代に鎮座する。式内等舊社記に、『黒巖神社。磯石郷上代村地内鎮座。或稱・黒巖神明宮。郷内二十箇村之惣社也。』とあり、又能登誌には、『劍山のつぎに、黒巖山といふ高嶺に山王の社あり。』と見える。今饒石黒巖神社と稱